

目 次

はじめに

校 長 平盛 吉昭

第1章	今年度の研究主題について	・・・・・・・・ p 1
第2章	国語科の取り組み	・・・・・・・・ p 2
第3章	地理歴史科・公民科の取り組み	・・・・・・・・ p 10
第4章	数学科の取り組み	・・・・・・・・ p 19
第5章	理科の取り組み	・・・・・・・・ p 31
第6章	外国語科の取り組み	・・・・・・・・ p 44
第7章	保健体育科の取り組み	・・・・・・・・ p 55
第8章	家庭科の取り組み	・・・・・・・・ p 66
第9章	看護科の取り組み	・・・・・・・・ p 73

第1章 今年度の研究主題について

グローバル化の進展に伴い、様々な場面で変化が生じ、変化への対応が迫られる時代を迎えている。高校教育においても、数年後には大幅な入試改革が現実のものとなり、大学入試センター試験の廃止や多面的総合的評価による大学入試制度への移行などを見据えて、生徒に身に付けさせるべき「学力」の再検討が喫緊の課題となっている。

これからの授業は、知識伝達型から知識活用型への移行が求められる。言語活動の充実を図り、知識活用のためのスキルを磨き、生徒たちの能動的学びを引き出す授業づくりが求められる。一方で活用させる「元」になる知識においても、より一層の定着を図り、確実に習得させる必要性も忘れてはならない。

このような状況にあることを踏まえ、今年度は学校全体で「生徒の進路実現に向けた授業づくり」という研究主題を設定した。国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語については、大学入試問題の研究・分析に基づいてサブテーマを設定した。センター試験の正答率を小問ごとに分析し、個々の通過率を基に生徒の弱点を踏まえて授業づくりにおける課題を検討し、それを克服させるための授業改善の視点を明確化した。また、体育、家庭及び看護については、前年度までの研究課題を踏まえて改善点を明確化し、教科ごとに研究サブテーマを決定した。設定されたサブテーマは次のとおりである。

表1 各教科のサブテーマ

教科	サブテーマ
国語	全体理解のための、部分読みをいかに図るか。
地理歴史・公民	資料活用能力を伸ばす指導法の工夫 (ICTを活用した授業の工夫)
数学	多面的な数学的思考力の育成 —再帰的な数学的思考システムの構築「できる」から「わかる」へ—
理科	身近な気象事象に関心もち、図を用いて思考するための授業の工夫
外国語	概要や要点を捉える力を育成する指導の工夫
体育	自らの目標達成のために挑戦する姿勢を育む工夫
看護	看護実践力を身に付けさせるため、思考力、判断力、表現力を育成するための授業内容の検討 —言語活動の充実を図り、生徒の学習意欲の変容につなげる—

研究の手法としては、各教科において「生徒に身に付けさせたい力」と「身に付けさせるための手立て」を具体的に設定し、授業で検証することとした。また、授業づくりにおいては「中心発問の工夫」と「言語活動の充実」の2点に意識的に取り組むこととした。

それでは次に、各教科の具体的な取り組みについて述べる。